

## [研究ノート]

# アクティブラーニングによる公民科の授業実践

市 川 聖

1. はじめに
2. アクティブラーニングの意義
  - (1) アクティブラーニングとは何か
  - (2) アクティブラーニングの既存研究
3. 公民科授業の実践事例
  - (1) 事例1 現代社会 「発展途上国の諸問題－途上国の貧困を考える」
  - (2) 事例2 公民研究 「Alwaysからみる高度経済成長」
4. おわりに－まとめと今後の課題－

## 1. はじめに

近年、教員が一方的に講義または授業をするスタイルが見直され、学生または生徒が自ら主体的に学習活動に取り組む授業形態・学習課題が重要視されるようになった。この背景としては、大学教育の質保証問題やファカルティ・ディベロップメントの潮流がある。そして大学教育では、社会や学生からの多様なニーズに対応するため、大学制度やその教育の在り方について変革が求められている（林 [2014]）。同様に高等学校でも、先述したような生徒の主体的な教育活動による授業実践が求められている。学校事例としては、長崎県立佐世保北高校が挙げられている。授業内容としては、世界史の研究授業において『アメリカ横断鉄道の敷設を新聞記者の目線でレポートする』を題材に生徒の主体的な学習活動が紹介されている（ベネッセ [2013]）。

一方、公民科は、1989年に告示された第6次改訂となる高等学校学習指導要領により、社会科から切り離されて設置された。さらに、1999年の第7次改訂以降、公民科の「現代社会」はそれまでの4単位から2単位となり、公民科の必修科目は、「現代社会」（2単位）もしくは「倫理」および「政治経済」（2単位×2科目＝4単位）のいずれかとなったが、必修科目カリキュラムの軽量化が進むなか、「現代社会」を必修科目とする傾向にある。しかしながら公民科における「現代社会」は、小・中学校の「社会科」および中学校の「道徳」との関連のほか、高等学校地理歴史科との関連が大いにある。このように高等学校公民科の「現代社会」は、教師の幅広い知識と教養、さらには授業方法の工夫が問われる科目である（東京学芸大学社会科教育学研究室 [2008, p. 54]）。

以上のことを背景に、本稿の目的は、公民科の授業の特色ある実践に対する検証とその課題提起を行うことである。そこで本稿では、まず高等学校における生徒の主体的な学習活動を促進するアクティブラーニングの意義について検討している。次に、アクティブラーニングを活用した公民科授業の実践について検証している。最後に、これらの授業方

法の検証から今後の課題について提示している。なお公民科の單元には、「発展途上国の貧困問題」と「日本経済のあゆみ」を取り扱った。

## 2. アクティブ・ラーニングの意義

### (1) アクティブ・ラーニングとは何か

アクティブ・ラーニングは、教師による一方的な講義形式の授業ではなく、グループワークやディスカッションなど生徒の能動的な学習への参加を取り入れた授業方法のことである（ベネッセ [2013, p. 21]）。さらにその効果として文部科学省では、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を目的としている。また、山地（2014）によれば、アクティブ・ラーニングとは、「思考を活性化する」学習形態であると提示している<sup>1)</sup>。ところで1990年代に提唱されたアクティブラーニングの定義は、Bonwell・Eison（1991）において「学生たちが行っている何かに関する思考と行為といった、それぞれの活動のなかで学生を巻き込んでいるすべてのこと」、つまり「巻き込み経験」であると示されている。

このようなアクティブ・ラーニングが登場した背景には、受動的学習という方法よりも、学習者がより楽しめ、持続的な学習が可能になり、かつ教師と学生が互いに「学ぶことの楽しさ」を共有できるような方法を模索し、通常の授業の方法がもつ潜在力をより強化したり、授業のレパートリーに多様性を創造しようとする試みがあった求められるようになったことである。その具体的な授業方法として、学習者間の討論、レポート作成、グループワーク、視覚映像を用いた学習活動などが挙げられている。

### (2) アクティブ・ラーニングの既存研究

これまでのアクティブ・ラーニングによる教育活動は、主に大学教育によるものが多かった。例えば、林（2014）では大学教育におけるアクティブ・ラーニングを導入するための手法として海外の事例を踏まえながら分析されていた。さらに木村（2013）でも、大学の教職課程の学生に対して実際の現場での出来事を授業で再現し、学生の気づきを促し、知識を実践的に活用することを紹介している。

一方、高等学校に焦点を当てた事例紹介もいくつかある。三浦（2010）では、「社会科の指導法」にアクティブ・ラーニングを適用し、その考察について考察している。その結果、社会科授業力の育成についての実践的な方法について分析している。また小林（2014）ではビジネス理論、生徒指導など多岐にわたる分野でアクティブ・ラーニング統合させた学級経営の方法を紹介している。以上のように、近年では高等学校における生徒の主体的な能力を育成する授業方法が注目されている。

## 3. 公民科授業の実践事例

本節では、アクティブ・ラーニングの先行研究を踏まえて、高等学校におけるアクティブラーニングの授業実践を検証する。そこで本節では、2つの事例を挙げた。まず「現代社会」では、発展途上国の貧困問題について学習指導案を用いた検証を行っている。なお、その際には1年次の現代社会を対象としている<sup>2)</sup>。

次に、特色ある学校設定科目の「公民研究」では日本経済史を取り扱った<sup>3)</sup>。ここでは高

度経済成長を視覚的な観点から捉えるために、映画「Always－三丁目の夕日64」を題材として取り上げた。

### (1)事例1 現代社会 「発展途上国の諸問題－途上国の貧困を考える」

#### ① 授業の目的

現行の学習指導要領では、南北問題など国際社会における貧困や格差については、「南北問題や南南問題などを取り上げ、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることを理解させるとともに、先進国の経済協力の在り方について考察させる」と目的に提示されている。また桑原（2010）を踏まえ、発展途上国（以下、「途上国」）の貧困問題を生徒に考えさせることを目的とした<sup>4)</sup>。さらに授業のねらいとして、生徒が途上国の知識について関心を持ち、主体的に考えさせることに着目した。

#### ② 授業方法と授業の講評<sup>5)</sup>

授業方法は、フィリピン共和国マニラ市のスラムに関する映像を教師の解説を含めながら鑑賞させ、映像に基づきディスカッションを行わせた<sup>6)</sup>。その際に、教師は生徒グループの机間巡視を行い、生徒の考えを助長させた。さらにグループ内で、発表者を決定し、ディスカッション後に発表させた。なお、生徒の発表は、教師が板書し、発表への講評を行い、全体による考えをまとめた。授業の最後に、フェアトレード、マイクロファイナンスなど教科書に記載されている学問的な知見について検討した。さらに小論文を書かせ、授業の復習を行った。

授業の講評については、教員側の反省会、生徒の小論文から得た。教員側からの講評は、「ディスカッションのねらいをさらに絞ることが必要である」、「フィリピンの概況についてさらに詳細に指導すること」、「生徒の発表方法についての工夫」などが主に挙げられた。一方、生徒側の反応は「発展途上国の貧困について知ることができた」を中心に途上国への支援など探求する姿勢があった。また、学年末に一年間の復習を行うと、途上国の貧困問題に興味を示した生徒が多かった。

以上のように、視覚映像を用いて生徒間にディスカッションを行わせるアクティブラーニングに一定の効果が見られたと考えられる。

### (2)事例2 公民研究 「Alwaysからみる高度経済成長」<sup>7)</sup>

#### ① 授業の目的

本授業では、1年次の「現代社会」の復習として高度経済成長を中心とした日本経済史を取り上げた。そのため、2年次の初期段階で現代社会の知識を定着させることが目的であった。

ところで、学習指導要領では、日本経済に関して政治・経済分野で詳細に記載されている。「現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現在経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる」と記述されている。以上から本授業の取り組みは、生徒に日本経済の歴史を踏まえながら今後の日本経済の動向を考える指導を行うことにした。

## ② 授業方法と授業の講評

授業方法は、授業の冒頭で1年次の「現代社会」の教科書を解説し、視覚映像である映画「Always－三丁目の夕日64」、ワークシートを用いた。ワークシートの穴埋め問題を解説した後に、生徒には各自視覚的な教材への感想を書かせた。授業の感想としては、主に時代の流れや生活の様子が理解できたと考えられる。しかし、本授業を対象とした学級では比較的学習意欲が低い生徒が多いため、ワークシートの効果が低かった。今後の課題としては、科目全体としての工夫が求められる。ニュース検定の受検、進学または就職へのキャリア支援など、生徒のインセンティブを促すような取り組みが大いに必要であると考えられる。

## 4. おわりに－まとめと今後の課題－

本稿では、アクティブラーニングを活用した公民科授業の取り組みについてまとめた。以上の結果より、アクティブ・ラーニングによる授業方法は、生徒への知識定着に役割を示すことがわかった。しかし、本実践は試行錯誤の展開であったため、課題がいくつかある。以下では、特に重要な点として指摘しておきたい。

第一に、応用力への発展である。ここでの応用力とは、大学受験を目標に置いた生徒への指導が必要であることを指している。そのためには、教師の解説を濃縮させた説明、アクティブ・ラーニングの方法、ねらいを絞ったディスカッションの工夫が求められる。第二に、学習意欲が低い、または基礎知識が少ない生徒への授業方法である。学習意欲が低いことによって、ディスカッションに到達できない場合を教師として考慮しなければならない。第三に、教科として育成するキャリア教育との結びつきである。近年では、高校生のキャリア教育としてインターンシップなどの取り組みも行われている。特に公民科は、このようなキャリア教育に密接なつながりがあると考えられる。その結果、アクティブ・ラーニングを導入しながらのキャリア教育の必要性がある。

今後は、公民科としての教科指導を徹底するとともに、アクティブ・ラーニングのような創意工夫が求められる授業方法を展開することにしたい。とりわけ、現代社会に精通したワークシート教材の開発、生徒の学習活動重視の授業、「発問」に着目した授業展開の3点に着眼点を置いた授業力の向上を試みたい。

## 注

- 1) 山地（2014）では、具体的なアクティブ・ラーニングの手法について詳細に分析されている。
- 2) 事例1において対象としている学級は、比較的学習意欲も高く、進学を希望した生徒が多い学級である。
- 3) 学校設定科目は、学習指導要領において、「学校は、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、上記2及び3の表（省略）に掲げる教科について、これらに属する科目以外の科目（学校設定科目）を設けることができる。この場合において、学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等については、その科目の属する教科の目標に基づき、各学校の定めるところによるものとする。」とされている。さらに、学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等について定める際には、「その科目の属する教科の目標に基づき」という要件が示されていること及び科目の内容の構成については、関係する各科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する必要

がある。

- 4) 桑原 (2010) では、「開発」と「貧困」の問題を取り上げ、持続可能な社会を形成し、それを支える市民の育成する単元開発を目標に授業方法を検討している。
- 5) 【資料1】学習指導案および【資料2】ワークシートを参照して頂きたい。なおワークシートについてはB4判用紙で生徒に配布している。
- 6) ここではフジテレビ「世界がもし100人の村だったら」を取り上げた。
- 7) 【資料3】公民研究ワークシートを参照して頂きたい。なお実際にはB4判用紙で生徒に配布し、生徒が記入した感想文を添削した後に返却している。

## 参考文献

- Bonwell, C. C., & Eison, J. A. (1991). Active learning: Creating excitement in the classroom (ASHE-ERIC Higher Education Rep. No. 1). Washington, DC: The George Washington University, School of Education and Human Development.
- ベネッセコーポレーション (2013) 「アクティブラーニングで学習内容を効果的に定着させ、主体的な学びの意欲を引き出す」『VIEW21』2013. 12、pp. 21-23.
- 林 一雅 (2014) 「アクティブラーニングの環境整備」『21世紀教育フォーラム』9巻、弘前大学21世紀教育センター、pp. 1-8.
- 木村重房 (2013) 「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業について」『総合教育研究センター紀要』(12)、天理大学人間学部総合教育研究センター、pp. 81-90.
- 小林昭文 (2014) 「学級力を高める授業：アクティブラーニングで生徒が変わる」『月刊生徒指導』44(7)、pp. 30-34.
- 桑原敏典 (2010) 「「開発」と「貧困」の視点から持続可能な社会の形成を目指す公民科教育の単元開発研究」『岡山大学教育実践センター紀要』第10巻、pp. 31-40.
- 三浦和美 (2010) 「社会科授業力の育成を目指すアクティブラーニングの適用とその評価」『東北福祉大学研究紀要』34号、東北福祉大学、pp. 215-226.
- 文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説公民編』.
- 東京学芸大学社会科教育学研究室 (2008) 「中高社会科へのアプローチ－社会科教師の専門性育成」、東京学芸大学出版会.
- 山地弘起 (2014) 「アクティブ・ラーニングとはなにか (特集 アクティブ・ラーニングの実質化に向けて)」『大学教育と情報』(1)、私立大学情報教育協会、pp. 2-7.

【資料1】 学習指導案

地歴・公民科（現代社会）学習指導案

1. 単元（題材）：第2章 国際経済の動向と国際協力（発展途上国の諸問題）
2. 目標：
  - 発展途上国の諸問題について主体的に考える姿勢を身につける。  
（知識・理解）（思考・判断・表現）
  - 発展途上国の現状と貧困問題について理解し、身近に取り組めることを考える。  
（関心・意欲・態度）
  - グローバル社会で生きる教養人としての知識を身につける。（知識・理解）
3. 指導上の立場：
  - 単元観（教材観）  
発展途上国の諸問題は生徒にとっても具体化することが難しい単元であるが、教科書、資料集を用いて授業を行っている。本時では、貧困問題を中心とした発展途上国の現状を視覚的に捉えながら、具体的に考え、身近にできる発展途上国への支援を主体的に考えさせたい。
  - 指導の留意点  
当クラスは、比較的学習意欲および知的好奇心が高いため、発展途上国の知識を生徒の教養として定着させることにも留意して授業を展開したい。また、世界経済の分野は生徒が理解しにくい分野でもあるため、授業者が具体的な手法（映像鑑賞およびディスカッション）を用いて、現状を理解させることにも留意したい。
4. 本時の目標：
  1. 発展途上国の現状を理解したうえで、途上国の経済について主体的に考え、グループワークから途上国の貧困問題の解決策を模索させる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）（技能）
  2. 生徒が身近にできる貧困対策を考えさせる。（知識・理解）

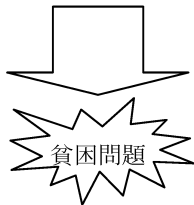
学 習 指 導 案			
	学習活動・内容	教師の指導・支援	評 価 基 準
導 入 (7分)	○前回の授業（発展途上国の諸問題）について復習する。  ○本時で取り上げるフィリピンスマーキーマウンテンの写真を提示する。	○前回の授業を応用して貧困問題（フィリピン：ストリートチルドレン）を考えることを明示する。  ○ワークシートを基にグループ作業を行うことを指示する。	○前回の授業が理解できているか。（知識・理解）  ○本時の作業が理解できるか。（関心・意欲・態度）
展 開 (35分)	○「世界がもし100人のむらだったら（フィリピンのストリートチルドレン）」を鑑賞する。（10分）  ○映像を踏まえ、グループ内で議論する。（15分）  ○グループでまとめた意見を発表する。（10分）	○映像の解説を行う。  ○グループディスカッションを指示する。 ・机間巡視  ○生徒の意見を板書し、講評を行う。	○映像鑑賞が積極的に行えているか。（関心・意欲・態度）  ○各グループで工夫し、積極的に意見交換ができているか。（思考・判断・表現）（知識・理解）  ○発表がまとめられているか。（表現・技能）
まとめ (8分)	○発表を踏まえ、発展途上国や日本で行われている貧困削減の手段を理解する。	○実際に発展途上国で行われている貧困対策を紹介し、意見と適合させる。	○身近にできる発展途上国の支援が理解できたか。（知識・理解）

【資料2】 現代社会 ワークシート

発展途上国の諸問題～「途上国の貧困を考える in フィリピン」

【前回の復習】 発展途上国の現状と貧困の原因

- ・ (1. ) …… 先進国と途上国の経済格差
- (2. ) …… 途上国間の経済格差
- (3. ) 経済の強制 → 工業化
- ・ 地域紛争 例) (4. ) 問題
- ・ 累積債務問題



モノカルチャー経済

単一または少数の一次産品の輸出に依存する経済。

パレスチナ問題

パレスチナにおけるユダヤ人とアラブ人との間の宗教的・歴史的・政治的対立の問題。中東戦争を経て長期化している。パレスチナ人を支援するアラブ諸国内部の対立やパレスチナ解放機構内部の対立など、問題が複雑化している。

【DVD「世界がもし100人の村だったら・・・」】

スモーキーマウンテン

フィリピンマニラ市北方に位置するスラム街のことである。名称の由来は、自然発火したごみの山から燻る煙が昇るさまから名付けられた。かつては海岸線に面した一漁村であったが、1954年に焼却されないゴミの投棄場になった。それ以来からマニラ市内で出たゴミが大量に運び込まれ、ゴミの中から廃品回収を行い僅かな日銭を稼ぐ貧民（スカベンジャー）が住み着き、急速にスラム化した。



ストリートチルドレン

都市の路頭で生活している子供のことで発展途上国の大都市に多く存在する。その背景には児童虐待やネグレクト、搾取などがある場合も多い。

【メモ（注目点!）】 **映像のメモをとりましょう!!**

・ 場 所 ……

・ 15 歳未満の人口

・ どのような仕事内容

・ マニカがやりたいことは?

※DVDの内容を記入

【発展途上国の解決策を考える】 **「世界がもし100人のむらだったら」を参考に!!**

1. 発展途上国が貧困から脱出するためには??

自分の意見	グループで出た意見

2. 身近にできる発展途上国への支援とは??

自分の意見	グループで出た意見

【まとめ1～発展途上国での対策】

**他のグループの意見を書く!!**

- ・ (5. )  
発展途上国の商品を適正な価格で継続して取引することによって、途上国の生産者の所得をささえ、先進国の消費者には安全な農作物などを提供することを目的としている。
- ・ (6. ) グラミン銀行：バングラデシュ  
貧困層に無担保・低金利で少額の資金を貸し出す小口融資。
- ・ (7. ) (政府開発援助)  
発展途上国に対して政府が行う援助。

**結論は・・・**

【まとめ2～考えた意見を文章にしてみましょう!!】 (※実際はB5判)



【資料3】 公民研究 ワークシート （※実際はB4判）

## 日本経済のあゆみ～「高度経済成長と ALWAYS」

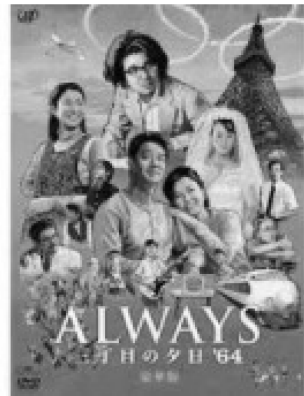
## 公民研究

### 1. ストーリー「ALWAYS～三丁目の夕日 64～」(前回のあらすじ)

前作から5年経った1964年(昭和39年)、日本は1964年の東京オリンピックの開催の前に国全体が活気付き、東京においても近代的なビルや首都高速道路などの建設ラッシュで土地開発が進んでいた。そんな急激な時代の流れの中でも、夕日町三丁目とその住民たちはいつも変わらない雰囲気を残していた。

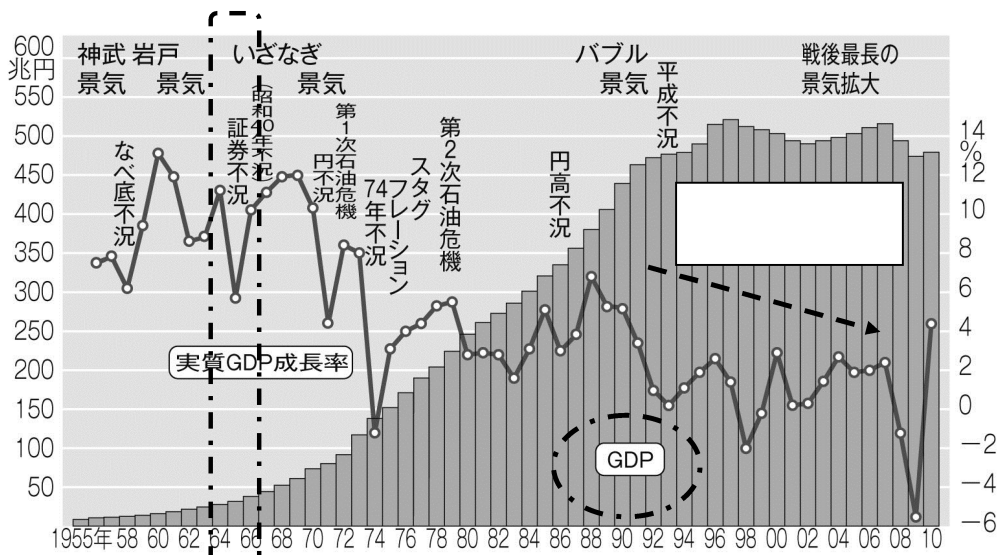
夫婦となった茶川とヒロミは、高校1年生になった淳之介は仲良く3人で暮らしていた。茶川は『冒険少年ブック』で連載を続けるも、新人作家に人気を奪われそうな事態になっていた。そんな茶川を陰で支えるヒロミは、生活のため居酒屋を切り盛りし、淳之介は東京大学を目指して猛勉強するも、内心は夢である小説家になることを忘れられない。

一方で、「鈴木オート」では将来は海外へ展開したいと野望を持っている則文と内助の功で夫を支える妻・トモエ。そんな両親を持つ一人息子・一平は思春期に入り、鈴木オートを継ぐことを嫌がり、リードギターに明け暮れる毎日。住み込みで働く六子には、あるふとしたきっかけで出会った医師・菊池との出会いで、いよいよ春がやって来る。



そんなある日、茶川のもとに、20年前に勘当された父・林太郎の危篤を知らせる電報が届く……

### 2. 日本経済のあゆみ



(2) 「三種の神器」と「新三種の神器」の違いは??

「三種の神器」・・・

「新三種の神器」・・・

(3) その後の ALWAYS の時代は??～高度経済成長が終わった原因は??

(左の図を参照のこと…)

3. 今の時代と比べて思うことは??どんなところが違うのか?? ～「古き良き時代」との比較～

---

---

---

---

---

キーワード：アクティブラーニング 公民科 学習指導要領 ディスカッション

(ICHIKAWA Takashi)